

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400598		
法人名	株式会社 エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール羽島		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町丸の内9丁目53番地		
自己評価作成日	平成29年6月11日	評価結果市町村受理日	平成29年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2016_022_kami-tru&amp;sj_gvosyoCd=2170400598-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver:si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2016_022_kami-tru&amp;sj_gvosyoCd=2170400598-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver:si_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成29年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご家族や面会者など馴染みの方との交流が途切れない様、訪問し易い雰囲気や対応を意識し心掛け、コミュニケーションに努めている。  
 又、ご家族を招いての食事会や行事を取り入れ、ご利用者がご家族とゆっくり過ごして頂く時間を大切にしている。  
 ・家庭的な雰囲気を大切にし、旬の食材を使用した献立の提供を心がけている。  
 施設内においても一年を通し季節を感じて頂ける様、テラスでは季節の花や野菜を作り、ご利用者と世話をしている。又施設内の壁面を使い、季節を感じて頂くよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の意味を職員一人ひとりが意識し合えるように実践発表の場を設け共有し学びあっている。利用者の喜びは、職員の仕事のやりがいにもつながり、介護計画にも反映されている。特に家族との良好な関係の継続を大切にしており、行事に家族と利用者、職員も一緒に昼食をすることで、楽しい会話や、雰囲気づくりに取り組んでいる。食べることは健康につながるの思いで、旬の食材を使い食べなれた味付けになるよう調理している。看取りを想定して受け入れた利用者が、食べるようになり、話すことができるようになった。共有空間は、ゆったり作られくつろげる場で、一人でくつろげる居場所もあちこちにある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「響き合い」を意識できる様月2回のユニット会議にてご利用者と響き合えた事を発表する機会を設けている。施設内に掲示も行っている。	管理者は、日常の職員の姿勢や言葉使いを見ながら理念を確認し、実践に繋いでいる。職員はケアの中で「響き合えた」事例を会議で発表し、全職員でも学び共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に地域への買い物、散歩、外食などを心掛け、交流を意識している。外出先では地域の方もさり気なくご協力もして頂くこともある。又自治会の加入や子ども110番の窓口協力も行っている。	チラシを配り事業所行事の参加を呼びかけ、介護の相談場所としても利用していただいている。子ども会の廃品回収にも協力し子どもから礼状が届いている。外出時には住民からの声かけやさりげない手伝いを得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談や来訪者からの相談にその都度対応している。秋まつりでは介護相談も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、会議を開催し、意見交換を行っている。会議時間を利用し一緒におやつを食べながらの談話時間を確保している。民生委員の方と行政の方との意見交換の場もなっている。	毎年、昼食会後に開く会議も含め、隔月毎に会議を開催し、会議メンバーと意見交換・情報の共有を図っている。地域で困っている人への協力や車椅子利用者の外出、地域の洪水対策への意見があり、運営に活かしている。	
5	(4)	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が日頃から連携を取り、協力関係を築けるよう努めている。今年度は運営推進会議の場でも交流する機会がある。	書類・チラシを持参したり、空き室情報等を知らせたりする際、相談を受ける事もある。行政の事業所見学もあり、事業所の実情を伝え協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・教育委員会の資料を使い、研修を実施し学ぶ機会がある。危険行為のある方は職員同士、連携し見守りを重視している。現在、身体拘束をしている方はいない。	年数回の研修を実施し提出したレポートからも学び合っている。拘束をしない工夫などを再度共有している。ベッドから降りようとして転落の危険がある利用者にはベッドの高さを低くして床に畳を敷くなどの対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・教育委員会の資料を使い、研修を実施し学ぶ機会がある。不適切な対応や声かけなどあれば、職員同士がその都度注意し合える関係作りが出来ている。		

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時の初級研修で学び、その後は教育研修委員会の研修にて学ぶ機会がある。実際に成年後見制度を利用しているご利用者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時や契約前にはご利用者、ご家族に対し十分な説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室や事務所を活用し、個別でゆっくり話を伺う環境を意識している。運営推進会議後の時間を活用し民生委員、高齢福祉課の方に直接お話しが出来るよう配慮している。	個別に、利用者、家族の要望など法要に出かけたい、ケアプランへの要望、床材についてなどその都度検討し応えている。家族の訪問は頻回にあり、家族が気軽に言いやすい雰囲気づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々の会話等で話をする機会を意識している。定期的に対一のヒヤリングを実施し、思いや意向の把握に努めている。	職員自己評価表に基づき、目標の達成度など個別に話す機会を設けて聞いている。職員用駐車場、休憩スペースの確保、洗濯機の故障の対応、車いす対応体重計の導入の要望など意見を受け対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりに合った担当があり、責任ややりがいに繋げている。又人事考課制度により各職員は目標を持ち業務にあたり適正な評価を受けている。家庭の状況を考慮し柔軟なシフト協力を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での研修の他、社内外の研修案内を提示し参加する機会を設けている。資格取得に対しての学習のサポートやシフトの調整などの環境にも配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G・H協議会の実行委員として研修内容の検討を行い、研修を実施している。職員も可能な限り研修に参加し、他の事業所との交流や情報交換を行っている。		

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談では、ゆっくりと時間をかけご利用者やご家族の話を傾聴し信頼関係の構築に努めている。入居後は特にコミュニケーションを意識し職員同士情報の共有に努めケアに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日々の面会や電話などにてご家族の不安や要望などを傾聴している。共にご利用者を支え支援できるよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談で得た情報やご本人、ご家族の要望を踏まえ必要な支援を専門職と共に話し合い、情報の提供や必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を踏まえ、各ご利用者の状態に合わせ、日々の暮らしの中で役割や活躍する場を意識している。出来る事出来ない事を見極めさり気なくサポートをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1度、ご家族に手紙を送付しているご家族が面会しやすい雰囲気や対応に心掛け、日頃の様子を随時報告している。ご家族を招いての食事会ではゆっくりと一緒に過ごして頂く時間も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に出かけている。入居前の友人が訪ねて来られた際は、一緒におやつやお茶を飲み、ゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。	高齢の友人の訪問が難しい時は、家族に依頼し関係継続できるよう支援している。地域行事に積極的に出かけ、出先で知人に会い、話ができる機会を多くするよう工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を考慮したテーブル席や随所にソファやテーブルを設置し自由に交流して頂いている。関係が良好に保てるよう職員もサポートをしている。		

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、いつでも相談頂ける事をお伝えし必要に応じ対応できる体制を作っている。退去後数カ月が経過したご家族から車椅子の寄付をして頂いた事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から希望や意向を伺い実現に努めている。意思疎通が困難な方へはご家族の話や日々の様子を職員同士共有し、思いをくみ取り支援に繋げられるよう心掛けている。	家族からの情報や日常の会話から、好みや経験したことなど思わぬ発見がある。情報は気づきノート・介護記録に残して介護計画に活かしている。お試し体験入居から情報を得ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談やご本人、ご家族から情報収集を行い、一人ひとりの暮らし方を尊重している。新しい情報があれば職員間で共有することで新たな発見もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報の共有に心掛け、日々のケアやユニット会議での検討会、介護記録や申し送りなどを活用し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者のアセスメントを基にユニット会議にて検討会を実施。ケア時の気づきや提案を支援に繋げている。会議では全員が意見を出し合えるよう進行している。	担当職員がアセスメントをし、気づきノートや会議記録より全職員でモニタリングしている。医師や家族の意見を聞き、ユニット会議で検討し、介護計画を作成している。職員は介護計画に対し参加の意識が薄い。実地指導により、目標、達成度が分かりやすいよう数値化に向けて取り組んでいる。	全職員は、計画を担う一員であり、利用者の目標達成に添った計画を担うことの理解を深めてほしい。達成しやすい介護計画の作成、サービスの実施により、本人の生活がより良い暮らしとなるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、連絡ノートを活用し特に介護記録にはご利用者の状況がわかるよう詳しく記入するよう心掛けている。状態の変化があればその都度ケア内容の変更を行い対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の状況に応じ、柔軟な対応に努めている。現在も受診の付き添いや送迎などの協力を行っている。		

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃から散歩や買い物、外食などに出かけ地域の方々とのふれ合いを大切にしている。地域ボランティアの方の定期的な来所もあり、共に楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に入居後も引き続き往診を受けられている方もいる。ご家族の依頼があれば外部医療機関への受診付き添い、送迎の協力を行っている。	本人・家族の希望する従来のかかりつけ医を継続し往診も受けている。受診の際、家族の都合が悪い時は専門医への送迎も対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携により24時間のオンコール体制を確保している。週に1度の訪問時には日々の健康管理やアドバイスを頂き、主治医に繋げることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は安心して治療をして頂けるようこまめに面会し、担当看護師からの情報収集、情報の共有に努めている。退院後の体制準備も進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合や終末期についての説明と同意を得ている。施設として出来ること出来ないことを明確に説明し理解して頂いている。状態の変化に伴い主治医、ご家族との話し合いを行い看取りも可能。	契約時に管理者から説明し、重度化した場合や看取りに関する同意を得ている。医療が必要になった場合は、継続は出来ないことを話している。医師と家族の話し合いを交えて入院になるケースが多く、まだ看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応できるようユニット会議で確認する機会を作っている。ご利用者の急変時の救急対応時に備え必要な情報を正確に迅速に伝えられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回定期的に消防訓練を実施している。部分訓練では、夜間帯を想定した訓練にて通報の練習を実施。又3日間の食料備蓄や備品を整備している。今年からは洪水に備えた計画も整備している。	地域の合同訓練を含め年4回消防・避難訓練を消防署の指導の下で実施している。夜間想定訓練も実施し、指導を受け、職員で話し合っている。地域住民の避難場所として事業所二階を提供している。	

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけや対応を行いご利用者を敬う気持ちを大切にしている。入浴時や排泄時などは特に羞恥心に配慮した対応を心掛けている。社内研修において学ぶ機会もある。	管理者は利用者や家族に対して特に言葉使いに注意している。気になればその場で注意し、職員同士もお互いに注意し合っている。昼間は居室のポータブルトイレに布をかぶせている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の出来る方は、日時用生活の中で自己決定が出来る機会を意識し尊重している。困難な方には、日々の様子や情報の共有によりケアに繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣を把握しご利用者のペースや意思を尊重し、業務の変更や調整を行い希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみに気を配り、外出や行事などは、外出着に着替える方もいる。2ヶ月に1度、理容院の来所もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ季節を感じて頂けるよう意識している。誕生日の方にはご本人の希望の献立を提供し皆さんでお祝いしている。食器拭きや盛り付け、調理の手伝いをして頂くこともある。	旬の食材を使い皿数を多くして栄養バランスや色取りを考えて調理している。育てた野菜を利用し食べ慣れた味を取り入れ、家族も参加することもある。職員とテーブルを囲み賑やかな雰囲気を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや旬の食材の提供を心掛け個々に合わせた形態で対応している。水分量や食事量の確保が難しい場合は時間に捉われずご本人の好まれる物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、個々の状態に合わせてブラッシングやガーゼでのふき取り、スポンジケア、洗口液でのうがい介助を行っている。現在も定期的に歯科医の往診を受けている方もいる。		

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し対応している。各ご利用者にあわせさりげなくトイレの誘導を行い必要に応じた介助を行っている。動作協力を意識したケアを心掛けている。	昼間・夜間と利用者の状態に合わせ排泄用具の種類を変えながら負担を少なくしている。排泄時声かけしながら保有能力を活かし自立できるよう工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯に麦を混ぜ炊いている。便秘の方には起床時に冷たい牛乳を飲んで頂いたり野菜ジュースや乳酸菌飲料の提供をし自然排便を心掛けている。おやつ前後の体操や運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の体調や身体状況に合わせた対応を行い、希望や拒否などあれば無理強いせず柔軟な対応をしている。入浴剤の使用や季節によりゆずを入れることもある。	午前・午後希望入浴としている。改修時に手すりを多く配置した。肌に合わせた好みの石鹸を用意し会話を楽しみ、ゆっくり入浴できるよう配慮している。当日、入浴したくない利用者には日を改め対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は、シーツ交換や布団干しを行っている。個々に合わせ、居室内の空調や布団の調整を行い安眠出来るよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご利用者の処方内容がわかるファイルがあり、いつでも確認できる。処方内容の変更は申し送りでも把握できる様にしている。服薬前は必ず二人で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご利用者の状態に合わせて出来ることを無理強いせず行って頂いている。リビングをオープンテラス風にしお茶を楽しんで頂いている。日々ケアの中から新しい発見に努め情報の共有を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩や買い物、喫茶店など積極的に出かけている。ご家族の方と外食や外出をされる方もみえる。	車椅子の利用者も含め全員で外出し、季節を感じ、地域住民と触れ合うことを重視している。喫茶店や食材の買い物に利用者とは掛けている。急な外出の希望にも応じている。	

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で預かっている個別資金があり、希望があれば一緒に買い物に出かけている。支払いが出来る方にはレジでの支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所の電話を使用して頂いている。年賀状や手紙のやり取りをされている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、季節に合わせた飾りつけを行い、リビングテーブルには季節の花を飾っている。食事時間はゆっくりと食事が出るようテレビを消し音楽を流している。テラスでは季節の花や野菜を育て収穫した物を食材として提供している。	共用空間(リビング・廊下・トイレ等)は広く、廊下に椅子テーブルを配置し居場所としている。庭にゴーヤ・ミニトマト・花を植え季節感を感じることができる。畳のコーナーもあり、廊下には写真を掲示し利用者の生活を紹介している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にテーブルやソファを設置し気の合ったご利用者同士が談話されている。ご本人の意思を尊重しゆっくり一人で過ごす頂く時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた家具やご家族の写真や飾っている方やご主人の写真にお参りされている方もある。入居後もご家族が小物や飾りを持参され飾られている。	家族の協力を得て馴染みのタンス・安楽椅子を置き、利用者の趣味の写真などを飾っている。畳み敷きの居室もあり、居心地よく過ごせる工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、表札や写真など目印をつけている。トイレや洗面所などには看板を設置し分かりやすくしている。理解の難しい方には、さり気なく誘導を行っている。		